

PEOPLE OF KOBE 〈3〉

文・野口武彦

〈神戸大学文学部助教授〉

▲キシ・ラヨシさん

神戸に世界史を生きる

キシ・ラヨシさん

オリエンタルホテル副支配人

オリエンタルホテルの副支配人キシ・ラヨシさんは、毎年三月を迎えるとめっぽう忙がしくなる。卒業をまじかに控えた神戸近在の女子高校生たちがこのホテルで受

けるテーブルマナーの講習。多いときは一日九百人に達する受講者の群れを前にして、立て板に水の日本語にユーモアもたっぷりとたたえたキシさんの指導ぶりは

今日、西洋料理のテーブルに向つてもいさかのコンプレクスを持たない娘さんたちを大勢育て上げている。最近は日本人のテーブルマナーもだいぶ上達したとはキシさん自身の批評だが、それもこのオリエンタルホテルがさきがけをなすという講習会の強弩の末と評すべき

か。

キシ・ラヨシさん。姓はキシで名はラヨシである。姓名のこうした名のり方は、母国ハンガリア語の語順にかかる。日本に在住することほとんど六十年になんなんとし、日本女性の夫人と三人の娘さんに恵まれたキシさんのライフ・ヒストリーは、さながら一つの劇であるといつてよいだろう。一八九四年、いまはルーマニアに編入されているが

当時はまだハンガリア南部に属していたテメシュヴァールという町で、キシさんは生れた。ちょうど二十歳になった一九一四年に、第一次世界大戦がはじまる。キシさんはその頃全盛のオーストリア＝ハンガリーア帝国の歩兵師団に配属され、銃をかついで出征。キエフ戦線でロシア軍と交戦中に負傷して捕虜になる。それがキシさんの一生の運命を決定的に変えた。

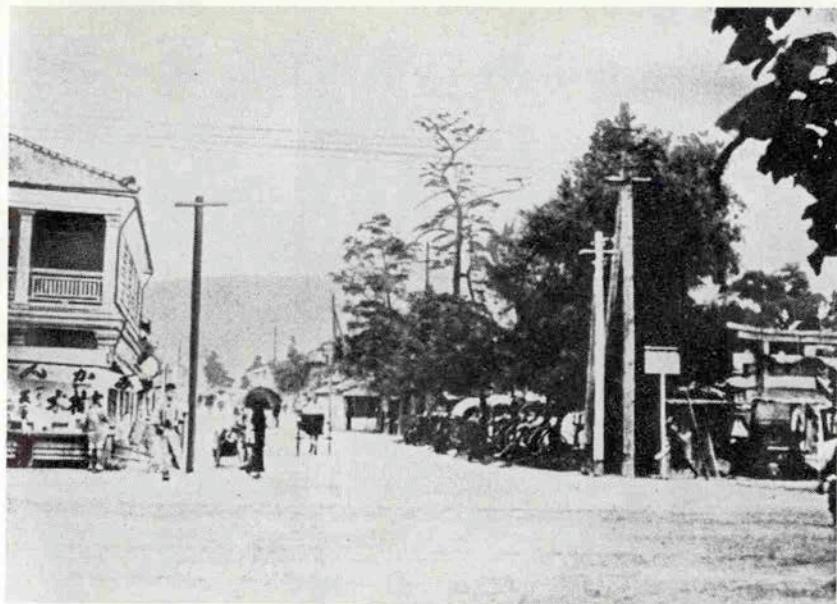
シベリア各地を転々と移送されて捕虜の生活に苦しむこと数年。負傷を治療しようにもまるつきり医者がいないという寒冷なシベリアで過酷な体験に耐えられたのは、一つには若さもあつたろうが、持ち前の強靭な体力が何よりもものをいった。いま眼前に見るキシさんは、齡八十歳にしていまだに病気を知らないという健壮さだ。過去の半生を語る言葉は淡々、表情は飄々として、ほとんどこれ仙骨の印象である。キエフ戦線から捕虜収容所へ。ハバロフスクがいちばん長かつたといいう戦時生活のあいまには、さぞやシユベイク的奇行が豊富であつたろうと思わせる飄逸味がこの人物にはただよつてゐるのである。

さて、そのキシさんの運命をもう一度方



今春社会へ巣立つ女子高校生たちにテーブルマナーを教えるキシさん（オリエンタルホテルにて）

と知れたロシア革命の勃発であつた。



北へ向っている道がトアロード。右の林は三宮神社（明治40年頃）

この世界史的一大転回点が、シベリアの捕虜たちの状態をどんなふうに変えたかは想像に余りあるだろう。までの監視の眼はとつぜんゆるめられたものの、その日から極端な食糧不足が訪れた。やむなくキシさんは近くの農村で働いて飢えをつなぐ。革命に続く内戦の開始がシベリア全土を空前の無政府状態に変えていたから、捕虜兵士たちはいざれもめいめいの才覚で食いつなぐほかはなかつたのである。その間にあって、キシさんはかの悪名高いシベリア出兵、ウラジオストックを占領し、ソ満国境に兵力を散開させた日本軍兵士に売りつけて食糧代を稼ぐための油絵を描く余裕さえあつたのだから

ら、いかにこの人物、底ぬけにオブティミスティックな活力に恵まれていたかが知られるというものだ。そのうちに事態は好転して、ドイツやオーストリア＝ハンガリーの赤十字が捕虜兵士の引揚船をウラジオストックにさしむけるまでになつた。もしもその船に乗り込んでもつすぐ欧洲に帰つてしまつていたら、今日かくあるキシさんはいなかつたろう。ウラジオストックからまだ二十代半ばのキシさんは乗せた船が着いたのは、しかしその代りに、敦賀の港だつた。この機会に一度日本を見て帰りたい。くすしき運命にもてあそばされてシベリア大陸を横断、ラヨシ青年を東海の孤島に招き寄せたのは、あるいはその体内に流れるマジャール民族の血でア大陸は横断、ラヨシ青年を東海の孤島に招き寄せたのもあつたろうか。周知のとおり、ハンガリアはユーラシア大陸を東西に帶状に横切るウラル＝アルタイ人種の飛び地である。日本語とハンガリ語は、語順その他の言語構造にいくつかの類似点を残しているのみならず、共通の語彙さえ持つてゐるとキシさんはいう。たとえばハンガリア語でカタナといえば兵隊のこと。わたしはいまそのこととの語原学上の当否をつまびらかにしない。しかしともかくハンガリアのカタナであつたキシさんは、大正年間に敦賀の土を踏んで以来、そのまま日本に永住してしまうのである。ちなみにキシさんの少年時代には、ハンガリアの山中にはまだ弁髪姿のモンゴル人が独自の生活をいとなんでいるのが見られたといふ。

キシさんの日本での生活は、まず東京帝国ホテルの勤務からはじまる。料理の腕を買われたのもさることながら、今日ホテルマンとしての大をなすにいたるまでには、なみなみならぬ努力もあつたにちがいない。上陸早々には片言隻句も解さなかつた日本語の習得が先決問題。大森の仮寓から帝国ホテルへ通う電車の中、ある

いは公園の木立ちの隅で単語をおぼえるのになりふり構わぬ、ために「気狂い西洋人」とあだなされた一時期もあつたとか。いまの流暢な日本語の下地はそのようにしてつかわれたわけである。忙がしい勤務のあいだの閑暇に、しげしげかよったサイレント映画。その英文の字幕と活動弁士の映画説明とがキシさんのためにはランゲッジ・ラボラトリーの役割を果したという。楽しい話である。

できるだけ多くの外国語をたくみにこなすことは、一流ホテルマンの必要条件である。英、独、日、仏は無論のこと。それにシベリアで聞き覚えたロシア語が、時としてキシさんの仕事を助ける。母国語が通じず、無聊に苦しむソ連からの宿泊客がいきなりロシア語で話しかけられたときの驚きと喜び。キシさんはそんな思いやりのあるホテルマンなのである。

ここで一つロマンスを紹介しておこう。故国ハンガリアはカトリックの伝統の強いお国柄のこととて、キシさんは東京在住時代、大森の聖フランシス修道院にかよつた。そこで見そめたのが現夫人である。三人のお嬢さんは現在いずれも花柳流の名取りさん。大正時代の東京大森といえば、モダンでハイカラな欧化風俗の世界である。そしてその世界はそのまま、キシさんが旧・トア・ホテルの司厨長、Maitre-d'hotel として迎えられたことに

よって、神戸の町に舞台を移すことになる。

今日でも神戸の三宮と元町との境い目に地名として残っているトア・ロードのトアとは何か、それがいかなる語原のものかということは、かねてからわたしの疑問だつた。ところが今回、キシさんのお話を聞くに及んでその疑問はなく氷解するにいたつたのである。ことの発端はまだ明治の末年、トア・ホテルの前身にあたるクリスチャン宣教師の宿泊所が山手の一軒に建てられた時代にさかのほる。当時はまだ丸と市役所の間に広々とした林がひろがっていて、いま民屋店舗櫛比して殷賑をきわめるトア・ロードは、何のことはない林を切りひらいて作られた一筋の人力車道にすぎなかつた。ともかく一面の山林だった山手の高台に次々と外国人居留者の邸宅が建てられて、現在の北野町が形成されていった時代の話である。

くだんの宣教師たちの下宿屋は、とある小さな神社——いまその存否を明らかにしない——のかたわらに土地をトしていった。神社だからその入り口に鳥居があつたのはあたりまえである。じつをいえばそれが建てられたのが神社の旧境内だつたのか、その界隈だつたのかも定かではないのだが、いくら全智全能の耶穌の神様でも、國つ神まします鎮守^{きんしゆ}產土^{うぶ}の地を取りつぶしてよいという法はないのだから、いまは便宜的にその神社のかたわらにと



解釈しておく。とにかくそこには鳥居が立っていたのである。

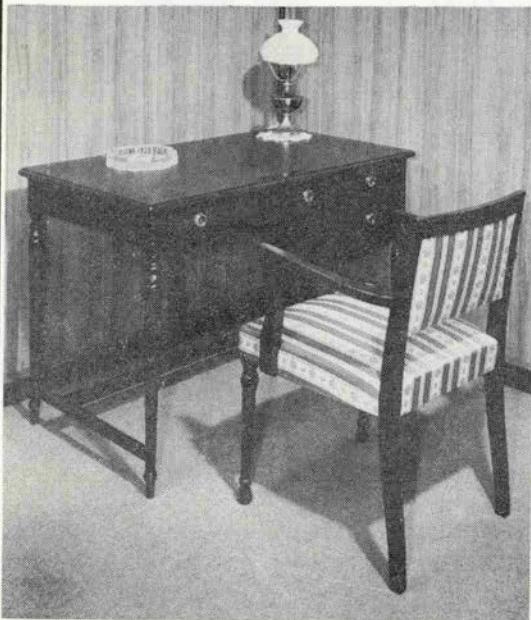
ところでその宣教師たちの一団には、ドイツ系の人々が多かった。入り口のシンボルたる鳥居 Torii は、すなわちドイツ語の *Tür* (戸口) である。トア・ロード、Tor Road の *Tor* とは、このようにして、*Tür* の意を体した *Torii* の短縮形に他ならない。この名称がやがて宣教師の下宿屋から西洋人相手のホテルに変り、旧 *Tor Hotel* が誕生したときにそのまま引きつがれた、というのがキシさんの説明であった。

そのトア・ロードは、第二次大戦の勃発とともに、敵性言語の禁止すなわち外国语使用禁止という国是にしたがって、東亜道路と改名される。戦争の直前に日本人に買収され、かつては西洋人専用——といつても、日本人は泊めないと云う営業方針ではなく、日本人が敬遠して泊らなかつただけだというキシ氏の注釈を念のために補足しておく——から川崎重工のレクリエーション・ホテルに変わっていたトア・ホテルも、東亜ホテルと呼ばれることになつた。それは同時にキシさんの苦難の一時期でもある。戦争によつて外交関係が途絶した国々の大使や領事の帰國までの駐留施設。さらに戦局が激化してからは赤十字病院の指定。もはやホテルでなくなつたホテルに、キシさんはさながら沈没に瀕した船に踏みとどまる船員のように、みずから運命を結びつけたのであつた。そして戦後二十九年間のキシさんの生活史は、オリエンタルホテルの沿革とともに歩みづけてきた歴史である。

長い日本在住期間を通じても、東京と神戸にしか住んだことがないというキシさんは、神戸への深い愛着を淡白な口調で語る。港町神戸の中心がまだ元町にあり生き馬の眼をぬく東京銀座の雑踏とはうつて變つたのんびりした空気が元町一帯にたたよつていて、たとえば店にろくすっぽ店番がいなくともちゃんと営業がなりたつた古きよき時代。この町は大正から昭和の初めにかけて特に関東大震災による東京の荒廃のあと、西洋の文物に

あこがれ、海彼への夢をふくらませた人々を大勢ひきよせってきたのだが、その町の空氣はまた、もともとヨーロッパの地に生まれ、身をもつて戦乱をくぐりぬけてきたキシ・ラヨシ氏のような人物をも五十年以上の長きにわたりて定住させ、憩わせてきた不思議な魅力を持つていたのである。それはかならずしも六甲の連山と瀬戸内の海とがかたみに抱擁する柔軟な風光のためばかりではあるまい。あまたの *Déracinés* たちに根を与え、とはいえないまでも、かりそめの仮根を生じさせる何かの作用がこの町の光と空氣と水の中にあるとすれば、われわれは今後もそれを失つてはならない。そしてまた、生涯の大部分をホテルマンとして過し、漂泊の旅人につねにあたたかく接してきたキシさん自身の存在が、そうした力の一要素であることはもとより言をまたないであろう。平生ウナギを好み、正月には雑煮もつつくといふ日本料理通のキシさんが、日本ではじめて食べたのがカレーライスだったという愉快な話がある。当時日本でもそれほど普及していなかつたこの料理の本体を知ったのは、帝国ホテルにインドの王様(マハーラージャ)が来宿したときだつたというエピソード。それからフランスの鴨料理の話、ヨーロッパのワインの品鷹、ハンガリアのトカイ酒の話と、次から次へとキシさんの話題はつきない。しかしそれにしても故郷の土地を離れてから今年でちょうど六十年、キシさんの胸中には遠い望郷の念が去来することはないのだろうか。わたしがふとそんな気持に誘われたのは、キシさんがハンガリアとルーマニアとの国境あたりにひろがる広大な梅林のこと回想して語つてくれたときのことだった。そこには街道沿いに梅樹の林が鱗々とつらなり、春さきには満目これ梅花、芳香四方に薫する風景が展開される。熟した実は空しく地に落ちて腐るにまかされるので、通行の旅人はいつでも自由にそれを取つて食べることができる。土地の人々は年ごとに梅の果肉を発酵させて美酒をかもし、その芳潤な味わいを楽しむという。

確かなものだけを求める
あなたのインテリアサロン



本社 株式会社 不二屋 フジヤ FUJIYA
リビングづくりのアドバイザー

本社 神戸市生田区三宮町 TEL(078)391-0535代
工場 神戸市垂水区玉津町 TEL(078)706-5914

大阪市北区芝田町 55
阪急の～る街・北阪急ビル
TEL(06) 373-0521代

神戸店 大

電話 神戸 (31321)
大阪店 阪神 (33344)
姫路店 大阪百貨 (33488番)
電話 やまとや (23) 丸
姫路 (345) 丸
二番階 (24) 前

みよしや

重要無形文化財

歌舞伎

出演予定

人間国宝／竹本 津大夫
人間国宝／野澤 松之輔

ほか

■公演日時
昭和四十九年二月二十四日（日）

。昼の部 午後一時
。夜の部 午後五時三十分

■プログラム

昼の部

。傾城阿波の鳴門
。伊賀越道中双六
。一谷嫗軍記
。曾根崎心中
夜の部

| ■場所 | 神戸文化ホール／中ホール |
|----------------|-----------------|
| ■入場料金 | 一般 一、〇〇〇円 |
| 学生 | 七〇〇円 |
| ●市内各プレイガイドにて発売 | |



神戸文化ホール

神戸市生田区楠町4丁目26 ☎078-351-3535

★神戸の催し物3月ご案内★

音楽

南沙織ショ

17歳から。色づく街までヒット曲でつづる。2日(土)①2時半②6時半 神戸国際会館 S

・一七〇〇円 A・一五〇〇円
B・一二〇〇円 C・一〇〇〇円
D・七〇〇円

大島梨栄マリンバリサイタ

2日(土) 6時半県民小劇場

七〇〇円

パック・オーエンスショ

3日(日) 2時 神戸文化大ホール

L.S.・四五〇円 S・二五〇円
A・二一〇〇円 B・一八〇〇円
C・一五〇〇円

第8回あなたと私の音楽会

4日(月) 6時半 神戸文化小ホール

三〇〇円

雪村いづみリサイタル

9日(土) 6時半 神戸文化大ホール

二一〇〇円

中山ラビの世界

4日(月) 6時 神戸文化小ホール

三〇〇円

歌、演奏、踊りOKです。10日

(日) ①正午②3時 神戸国際会館

S・一五〇〇円 A・一二〇〇円

チエリッシュユリサイタル

12日(火) 6時半 神戸国際会館

二一〇〇円

フィンガーファイブショ

1日(水) 6時半 神戸文化大ホール

二一〇〇円

ハイモニー交響楽団

1日(水) 6時半 神戸文化大ホール

二一〇〇円

チャイコフスキイの夕べ「くるみ割り人形」

1日(水) 6時半 神戸文化大ホール

二一〇〇円

「アラジン」

1日(水) 6時半 神戸文化大ホール

二一〇〇円

「アラジン」

1日(水) 6時半 神戸文化大ホール

二一〇〇円

A・一九〇〇円 B・一五〇〇円
森進一ショ

16日(土) ②2時②6時 神戸国際会館 S・二八〇〇円 A・二三〇〇円 B・一五〇〇円

マルタ・アルゲリッヒ・ビ

アノ演奏会

19日(火) 7時 神戸文化大ホール 民音会員一八〇〇円 一般 A・三〇〇〇円 B・二五〇〇円 C・二二〇〇円

キンギストン・トリオ

19日(火) 6時半 神戸国際会館 S・二二〇〇円 A・一五〇〇円 B・一四〇〇円

ビル・エバンス

20日(水) 6時半 神戸国際会館 S・二五〇〇円 A・二二〇〇円 B・一四〇〇円

AMIコンサート

南こうせつとかぐや姫、メロディメカニカル、猪俣出演。22日(金) 5時 神戸文化大ホール 前売・九〇〇円 当日・九九〇円

レニングラード・フィル

チャイコフスキイの夕べ「くるみ割り人形」「アラジン協奏曲第一番」「交響曲・悲愴」「指揮ユーリ・テミルカーノフ」「ピアノ独奏エリザベス・ピルサラーゼ」

23日(土) 6時半 神戸文化大ホール S・五五〇〇円 S・四八〇〇円 A・三八〇〇円 B・二八〇〇円

菅原洋一チャリティー

24日(日) 6時半 神戸国際会館 S・一二二〇円 A・九〇〇円 B・七二〇〇円

市民劇場「新進音楽家協奏曲の夕べ」

25日(月) 6時半 神戸文化中ホール 民音会員一二〇〇円 一般 A・二二〇〇円 B・一五〇〇円

カールロス・ガルシーア樂團

25日(月) 6時半 神戸文化中ホール 民音会員一二〇〇円 一般 A・二二〇〇円 B・一五〇〇円

ザ・ビーナッツのすべて

25日(月) 6時半 神戸文化中ホール 民音会員一二〇〇円 一般 A・二二〇〇円 B・一五〇〇円

ソング

23日(土) 6時半 神戸文化小ホール 無料 主催=神戸市余暇開発課

市民コンサート(フォーケ)

ソング

23日(土) 6時半 神戸文化小ホール 無料 主催=神戸市余暇開発課

「桜の園」

25日(月) 6時半 神戸文化中ホール 民音会員一二〇〇円 一般 A・二二〇〇円 B・一五〇〇円

劇団四季「間奏曲」

23日(土) 6時半 神戸文化中ホール 無料 主催=神戸市余暇開発課

「阿詩姫」

23日(土) 6時半 神戸文化中ホール 無料 主催=神戸市余暇開発課

民芸「桜の園」

23日(土) 6時半 神戸文化中ホール 無料 主催=神戸市余暇開発課

劇団四季「間奏曲」

23日(土) 6時半 神戸文化中ホール 無料 主催=神戸市余暇開発課

民芸「阿詩姫」

23日(土) 6時半 神戸文化中ホール 無料 主催=神戸市余暇開発課

ミュージカルコメディ「ウチの女房にツノが出た!」

7日(木) 7時 神戸文化中ホール 民音 一二〇〇円

11日(月) 6時半 15分 神戸国際会館 S・二二〇〇円 A・一五〇〇円 B・一四〇〇円

18日(月) 6時半 15分 神戸文化中ホール 労音 一二〇〇円

18日(月) 6時半 15分 神戸文化中ホール 伊賀軍記「曾根鶏鳴」夜の部「谷鐵軍記」越道中双六

21日(木) 6時半 15分 神戸文化中ホール 労音 一二〇〇円

21日(木) 6時半 15分 神戸文化中ホール 四〇〇円

その他

神戸のアーバンデザイン

『新旧比較シリーズ
ニュータウンとオールドタウン』

湊川界隈

①

④

●湊川かいわいの古い街は、オールドタウンといつても、終戦後のもので、自然発生的な市場、商店街です。新しい街、いまパークタウンと呼ばれている鉄筋コンクリート造の商店街は、旧公園敷地に陣どったこれも戦後の不法建築群を、新たな再開発計画のもとに建て直したもので。公園に接続した部分は2階建ですが、隣接した街区は、上に高層の共同住宅がのっかっています。

- ① ●この新しい部分と古い部分、その街としての情景、機能としての構成に、それぞれ賛否両論があるようです。

パークタウンが出来上った当時は、新しく再開発によった方に賛、まださわっていない部分に否ということが決定的だったと思いますが、最近この賛否の組合せが、逆転したようにも見えます。

- ② 何故でしょうか、どうして新しく手をかけお金をかけた方に否の反応が出てきたのか、皆で考えてみる必要があります。お客様の素直な印象というのは、比較的はっきりしています。この場所では、明るくて新しい建物なんてものよりは、にぎやかで商品が豊かで安いということ自体がまず一番だということです。新しい建物が建つと、それにかかるお金の償のためかなにか商品が高くなる。建物が主人役になってしまって商店も商品も、また商いの人たち自身もその枠のなかへはめ込まれたようになってしまいます、昔のように商品こそが主人公でそこいらじゅうに満ちあふれるようになっていて、お店の人達も活気あふれる雰囲気でなくなってしまう、というわけです。

- そこで、新しい建物でそういう昔のよさを残すことが出来ないのか、ということになるわけですが、それはやればやれるわけです。しかし、近代化・合理化・高層化・住商専用化という言葉だけに頼ったようなありきたりの計画や設計では、まず駄目だということでしょう。

(水谷顕介)



写真①② 古い町——市場

③④ 新しい町——ショッピングセンター

水谷頴介+チーム・UR
御影の町屋のお菓子屋さん——「虎屋」
神戸のモダーンリビング
③
84

●御影の大きな屋根のかかった酒倉のそばを通って第2阪神国道へ出たところに、この古くて立派なお店が建っています。2階建、1階にお店と作業場があります。お菓子屋さんですから、作業場は、もちろん、お菓子づくりの場です。ここで毎日、手づくりの羊羹やおまんじゅうが、つくられているのです。井戸があります。かつては、口のぐっと大きな井戸だったそうですが、今では普通の丸い井戸です。お水は、いまもきれいだそうで、あんこを晒したりするのには使っているそうです。裏庭に、お蔵（倉庫）、離れ、そして、やや新しいスタイルの住いがあります。2階も住いのスペースですからもちろん、住職共存です。

●創業は、天保3年だそうです。しかし、この建物は、明治の大火以来のものだそうです。部分的な手直し以外、その当時のものはほとんどそのままだそうで、時々手を加える必要があるようです。南に広い国道が出来て、風が強く、屋根の瓦を修繕するのと、土壁が落ちるということでした。須磨妙法寺に住む大工さんが、終戦後ずっと見てくれている、ということでした。こういった親切な大工さんの存在は貴重です。本当は、稀少では困るので、古い建築を大事につまでも丈夫に使いつづけるためには、修理やいろいろのめんどうを見ててくれる大工さんがそれぞれの町々にいてくれなくては困るのです。大工さんが、皆近代企業化してしまって、プレハブ住宅の下請工務店の仕事しかしてくれないようになってしまったのでは、本当に困るのです。

●今後とも、この建物をそのまま大事に使いつづけて、お菓子屋さんをやっていく、というお話を聞いて安心しました。息子さんが大学を出て近々、京都へ修業に出かけて、帰ってきて跡をつぐ、ということでした。この建物にいつまでも愛着を持ちつづけて手づくりのお菓子を、と期待いたします。

(水谷頴介)



▲「虎屋」のたたずまい



▲お店の中



▲羊かんをつくる仕事場

★神戸を福祉の町に(3) 上のマークは車イスで使用できる箇所にはられる国際シンボルマークです。



ホーム・ヘルパーの充実を

橋本 明

「ホームヘルパー」という言葉はまだ日本ではじみが薄い。簡単に言えば、一人で寝たきりの老人や身障者の家庭を定期的に訪問して身の回りのお世話をする人のことで、日本語では、「家庭奉仕員」とよばれている。

ここ十数年来、大都市では夫婦と子供だけのいわゆる核家族化が進んでいるといわれるが、子供と別居した老夫婦、あるいは一人暮しの老人だけの家庭が増えつたり、その中でも慢性の病気や老衰のため、他人の介護なしには生活のできない老人が都会の谷間で細々と命脈を保っている。そういうお年寄りたちを家庭から離して病院や老人ホームに収容するのではなく、その老人たちが今まで生活をしてきた地域の中で今まで通り生活ができるように手助けをしよう、というのが歐米のホームヘルプサービスの考え方であるが、日本にこの制度がとり入れられたのはまだ最近のことである。

神戸市では昭和41年4月から神戸市社会福祉協議会を中心になって実施していたが、46年6月から市の民生局へ管轄が移された。現在神戸市内のホームヘルパーは56人で、長田区が11人と一番多い。

一月二十五日、長田福祉事務所を訪ね、福祉係長の芦田文雄さんと老人福祉担当の江藤幸弘さんからお話をうかがった。それによるとヘルパーの派遣対象家庭は「心身障害者または65才以上の老人のいる低所得家庭で、ひとりぐらし、もしくはその家族が介護を行うことができない世帯」となっている。そして実際にヘルパーの派遣家庭の九割までが一人ぐらしの生活保護世帯だという。現在ヘルパーの募集は市が発行しているPR誌「こう

べ」や新聞の求人欄で行っており、応募の条件は「35才以上で45才未満の女性」で、もちろん老人を介護できる体力が必要。採用されると毎日朝九時から夕方五時まで勤務し、午前と午後一世帯づつぐらい自分の受けもつている家庭をまわる。派遣家庭での仕事は老人の身のまわりの世話、すなわち掃除、洗濯、食事の準備、買物、散歩、大小便の世話など様々。今の所身分は非常勤の嘱託で初任給は五一、〇〇〇円。休暇やボーナスは他の職員と同じだが、身分が不安定でしんどい仕事の割には報酬が少ないので、これがヘルパーの不満のようでもある。

さて、ある日無理をお願いしてヘルパーと共に派遣家庭を訪れてみることにした。ヘルパーの吉田ハルエさん(37)はこの仕事を始めて一年半。六世帯を受けもち、

毎日二世帯づつ訪れて老人のお世話をしている。

午後一時すぎに福祉事務所を出てバスに乗り、大橋五丁目で降りて五、六分歩くと目的の高井正治さん宅に着いた。「こんにちは」と元気よく声をかけて中に入る。と、ご主人の正治さん(80)と奥さんの千代子さん(68)が吉田さんを心待ちにしていたようにフトンに臥しながら笑顔で迎えてくれた。正治さんは脳出血の後遺症で右手右足が麻痺したまま寝たきりの毎日。難聴なので補聴器を使わないと会話ができない。千代子さんはリュウマチでヨロヨロと歩くのがやっとの生活。病弱なので寝こんでしまうとたちまちその日から二人共生活ができなくなってしまう。週に一、二度訪れるヘルパーだけが頼りの生活といってもいい。今日は畳の上に新しいゴザを敷き、部屋の整理をするのがヘルパーである吉田さんの仕事だ。

吉田さんがテキパキとフトンを片づけ、畳を掃き、ゴザを敷くのをながめながら正治さんは身の上話をボツリ、ボツリとしてくれた。身体が動かなくなる前は左官の仕事をしていたが、12年前ライトバンにはねられてからその後遺症で右半身が麻痺して床につくようになり、今でも毎晩右足がケインレンして、その痛さに耐えるため朝方までじっとがまんして起きていなければならぬのがとてもつらいといふ。一番の楽しみは市から贈られた車イスにのって散歩につれてもらいうで、その日はケインレンが少しましになるそうだ。

一時間ばかりでゴザをきれいに敷き終り、フトンをしている吉田さんをみながら「このおねえちゃんがきてくれなんなら、わたしらどうすることもできへん。ほんまにいおねえちゃんがきてくれてとつてもうれしいです」と老夫婦は口をそろえて言う。「市にも迷惑をかけすまんこつてす」と帰り際におじいさんがボツリとつぶやいた言葉が胸に突き刺さった。この老夫婦の家庭で



久しぶりに訪れたヘルパーと談笑する高井さん夫妻

もし今少しでも動ける奥さんが床についてしまったら、週一、二回のヘルパーの訪問だけはどうにもならなくなってしまう。その時この老夫婦の生活はどうなるのだろうか? という不安が帰りの私の頭の中にこびりついた。

老人人口の増大に伴つてホームヘルプサービスの役割はますます増大しつつある。日本のホームヘルパーは現在約七千人だが、英国には六万五千人、スウェーデンには六万人いる。英国ではさらにボランティア団体のホームヘルプサービスが加わるのでこの数はもっと多くのいる。またイスにはホームヘルパーの養成学校が十二校あり（日本にはまだ一校もない）、約五百三十の公私のは教養、一般、専門科目を習得し、病院や老人ホームで実地研修をつんだ後卒業試験を受けてパスしなくてはならないので、一人前のホームヘルパーになるまで一年半はかかる。日本ではまだ到底そこまではいかないし、「時々ヘルパーを女中さんと間違えて申込んでこられますので困ります」と江藤さんが苦笑するように、まだ家政婦的な感じがぬぐいきれないのも事実だ。

これからヘルパーに対する期待として「まず質の向上ですね。専門職としての意識や知識をもつて仕事に取り組んでほしいことです。次にヘルパーの専門部局の設置です。片手間でできる仕事じゃないですから。さらにやはりヘルパーをもつと増やしてくれれば、地域の中でよりきめ細かいサービスもできるのですが……」と芦田係長さんはいう。

昨年の夏、ロンドンで開かれた第四回国際ホーム・ヘルプ会議で、日本家庭奉仕員協会の加盟が認められ、日本ヘルパーも国際的な組織に仲間入りをした。福祉先進国のみのレベルになるまでにはまだかなりの時間がかかりそうだが、地道な努力はつづけなければならない

神戸遊戯誌 125

★慶応義塾が最初

戦前は東遊園地を使用

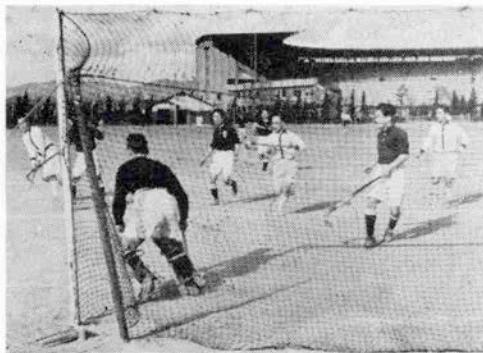
ホッケー選手の諸先輩や現役の人々に対しても悪いが、ホッケーに関心を持ったり、ホッケー試合を見るファンの数はわが国では他のスポーツに比べてまだまだ少ないようと思われる。筆者自身も白状するが、テレビでたまに見る程度でじっくり試合を観戦したことは一度もない。戦前はとりわけ見る機会が少なかった。神戸の東遊園地でごくたまに見たことはあったが、それも外人の試合風景が多かった。野球やサッカーに比べると、プレイヤーの志願者が少なく、従つてわが国ではやる時期を迎えることができなかつたことは、ホッケーの関係者にとってはじつに残念なことだらうと思われる。

だが、わが国へ伝えられた時期は意外に古く明治三十九年（一九〇六年）春のことだから、すでに七十年近く



試合開始！

（昭和28年度全日本ホッケー選手権大会
（神戸東遊園地にて）



ゴールは目前、シュートだ！

ホッケー①

青木重雄

になるわけだ。当時東京麻布にあつた聖アンドリウス教会の牧師ウイリアム・D・グレー氏を慶應義塾教授小倉和市民が母校に紹介したのが最初であった。同年十一月二三日グレー氏の指導で石コロの多い芝園橋畔のグラウンドで最初の練習が行われた。明治三十二年ごろに慶應にラグビーを紹介したクラーク教授が、ラグビーの用具を取り寄せる際ホッケーのステイック等を取り寄せ倉庫に入れておいたのが役立つたということである。この翌年はやくも横浜で慶應ホッケー・クラブ対横浜外人クラブの試合が行われたが、これがわが国における正式のホッケー試合のはじまりで、結果は横浜外人六一〇慶應であつた。以後毎年定期的にこの試合は続けられた。もつともこれ以前にも紹介されていた事実がある。明治六年工学校においてスコットランドから教師を招いて行われたといわれ、また三十六年に東京女子体操音楽学校の高橋忠次校長がアメリカ人の教師をやつて女子にホッケーをやらせたが、結局自然消滅してしまつたといわれている。

さらに古くさかのぼつてみると、東北地方において「地車」とか「ハナマゲ」と呼ばれる遊戯が行われておる、これは自然木の一端を用い、ボールとして適当な樺の木を打ち合い相手の陣地を越えます——という遊戯方法で、ホッケーに近い日本の遊戯だったと解される。その後大正三年には慶應以外に東京クラブが、七年には大阪ホッケーのクラブが生まれ、ようやく日本人同士の試合も行われるようになつたが、十一年陸軍戸山学校ではじめられるようになった頃から、早大、明大などの各大学においてもチームの結成がなされ、こうした一般普及化の情勢を反映して統制団体設立の機が熟し大正十二年一月十八日ついに大日本ホッケー協会が誕生した。以後わが国において毎年本格的な定期公式試合が行われることになつたわけだが、いついたホッケーはいつ頃からどこではじめられたものなのかを振り返つてみよう。

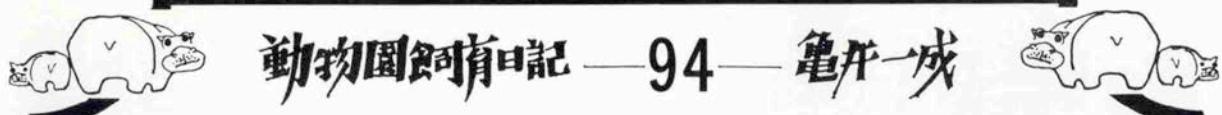
ホッケーは中世時代、北欧や北アジアにおいてかなり行なわれていたようで、堅い凍土の上で行われたものからアイスホッケーが生まれ、スコットランドやアイルランドの海岸の固い砂地でやられたものからフィールドホッケーが育つたものだろう。しかし今日のホッケー競技の前身としての起源はさらに古く、ステイックとボールを用いて戯むれた最も原始的なものはおそらくアジア、このとくにヘルシヤ方面から欧洲へ民族の移動がなされた時に同時にホッケーがギリシヤやローマ等の地域に伝えられたものではなかろうか。ギリシヤで一九二三年アテネの海岸の防波堤からミストクレス時代（紀元前五世紀初頭）のレリーフ（浮彫）が発見されたが、この画面には六人の裸像がステイックを持って立ち上がり、そのうちの二人が向かい合つて競技開始の姿勢をとっていることから、当時ボール・ゲームの一つとしてホッケーのようなものが行なわれていたのではないかといわれている。またアメリカ大陸ではインディアンの間に古くからホッケーに似たゲームが行なわれていたといわれるが、近代的なスポーツとしてのホッケーは一八八七年、イギリス・ホッ

ケー協会ができるからで、やがてオーストラリア、ニュージーランド、フランス、ドイツ、インド、アメリカ、スイスなどに普及した。

ちなみにホッケーの大体をこの機会に簡単に紹介する。チームは十一人で構成し、試合時間は前後半各三五分、ハーフタイムとして五分の休憩がある。選手はスティック（トウ＝藤＝製、先の部分は接着剤で櫻製、上の部分は糸で巻いている）を一本ずつ持つてプレーするが、片面しか使えず、巾も二インチ以内ときめられている。重さは十二一二八オンスの制限だが、ほとんどの選手は十八一二〇オンスのものを使っている。長さには取りきめはないが、ゴルフのクラブよりは短いものを使つている。

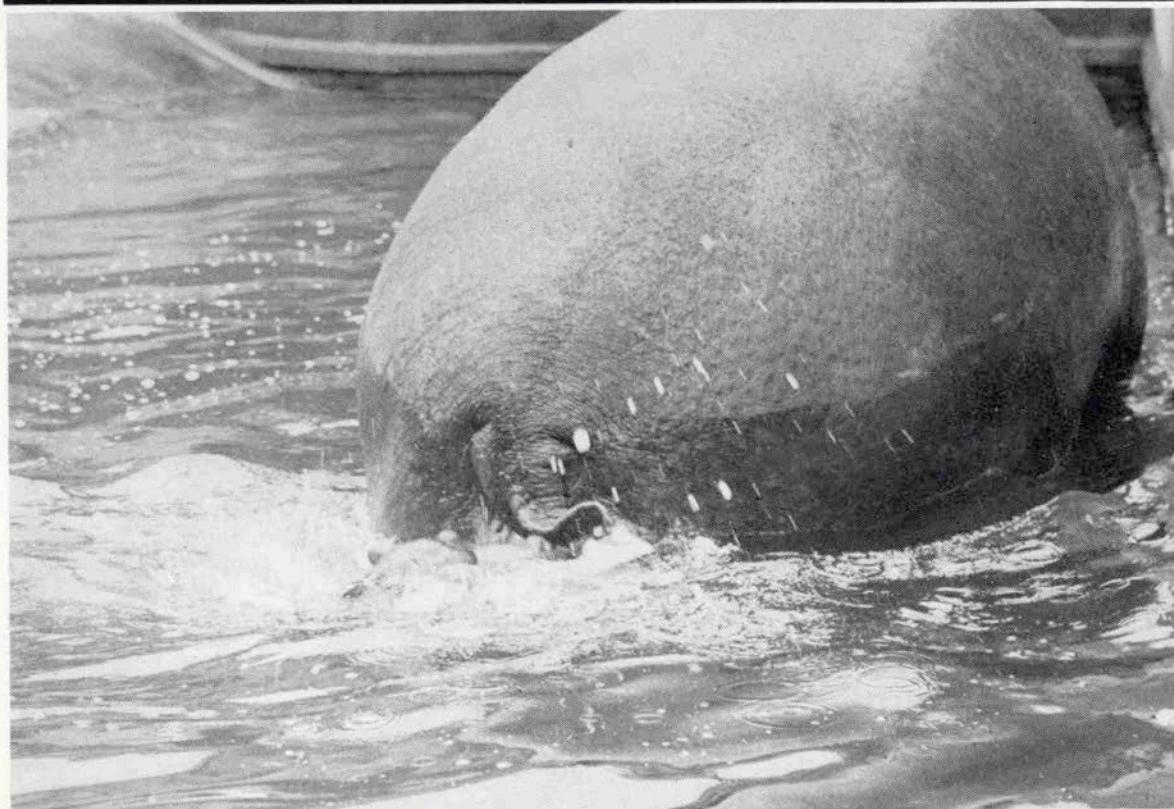
ゲーム内容の似てゐるサッカーはほとんど足が武器だが、ホッケーは足も手もフルに使わねばならぬので運動量が激しい。そのうえボールが小さいので目も疲れる。だが、普通の視力の人なら文句なくやれるし、半年間順調な練習を続ければ普通の健康体なら大丈夫選手になれると痛いので、普通くつ下の下に竹製のスネ当てをあてていて。ケガもたまにはあるが、そう心配するほど多くはない。外人が強いのは「手が長いから」と考へている日本人もあるが、これも考え方過ぎで、練習しないで日本の実力は外人好みに年々向上している。

さて、元に戻つて大日本ホッケー協会の創立された大正十二年の十二月一、二日戸山学校グランドで記念すべき全日本ホッケー選手権大会が早くも開かれたが、戸山学校、東京クラブ、慶大、明大の四チームが参加、慶大が7—1 東京クラブで初の選手権を獲得した。以後何年か関東勢の活躍がめだち、関西陣の参加がほとんど見られなかつたことはさびしい。もつとも神戸外人チーム（K R A C）は早くから活躍していたが……。



動物園飼育日記 —94— 亀井一成

ないしょ話シリーズ(15) カバ“繁殖白書”



誕生の瞬間。シッポの手前に見えるのが新生児。

五年前カバに関する全国調査、つまり「カバの国勢調査」みたいなものをやつたことがある。意外なことに、あれほど子供たちにも知られる出目で大口、愛きよう者のカバが、全国65園ある動物園中21園にしかいないことが解った。その数、41頭。

ゾウ、チンパンジー、ライオン、ギリはいても、カバだけはいないという動物園がまことに多いのだ。その理由が、大喰いと脱糞量がことのほか多いこと、しかも室内、屋外運動場共にかなり大きなブルを設けなければならぬ。つまり設備費に加えブルの換水と餌代など維持管理が大変だというのであらうか、ひどいのになると「うちは一種一頭主義、死ねばまた補充したらよい」。

というところが6園もあるのにおどろいてしまった。
『見せ物主義絶対反対論』の私には、この数字は見逃せないことだったが、そのようなことはさておき、以下はそのカバに関する調査結果あれこれである。



早くお母さんのように大きくなるんだよ。

カバの性成熟年令

体格が成獣近くに成長してくると（成獣の体重、オス2トン、メス1.5トン）春機発動期つまり性成熟期を迎えるが、その頃になると下垂体からの刺激ホルモンが分泌され、いろいろな形で発情兆候が現れてくることは原則的には何れの動物も同じなのである。

つまり食欲をなくし、興奮と恋鳴き、それに生殖器の発育と紅腫、排尿回数が増加し、オスの接近に尾を振るといったメスの兆候だ。一方、オスの方もまた、メスの性臭に刺激され、鼻づらを上向きに、まるで笑った顔に見えるフレーメン行為を見せるかと思えば、荒々しく辺りを駆け回り、排尿で外陰部をつねにぬらせることなど、かなりはつきりした発情兆候が認められる。ところがこれがカバとなると水中でのこと、よほど丹念に観察していないと、見逃がしてしまうことが多いので、飼育者にとってはその「いとなみ」を確認すること、容易なことではないのだ。しかしながら、各園苦心の結果、日本では昭和28年東京上野で最初の出産があつて以来、各園でもカバの繁殖に成功したわけだが、その集計は次のとおりであった。

メスが早熟

先ず興味を与えたことは、カバにおいても女性の方がやはり早熟だったこと。その実例として日本で最も早く若い年令で交尾を受け受胎した個体は東京上野のメス、ナヨコで、生後2年4月だった。それにひきかえるとオスはやや遅いが、よろこばしいことに神戸生れの長男坊が日本一早く生後3年5月で交尾受胎させている。ともかく平均生後4ヶ月で3月を記録している園は日立、



ヒナタボッコかな？身体を寄せ合ってお昼寝。

が集計されたが、分娩が起った場所としては水中が28例、陸上が15例となつた。しかしながら、たとえ陸上で分娩が行われても水ぎわであつて、哺乳はそのほとんどが水中で行われている。つまり、メス親が、浅瀬で身を横たえ、沈んだメス親の乳房に仔が水中で吸いつき授乳をうけるという“潜水哺乳”である。ところが、僅かに一例、昭和45年東京上野でのこと陸上分娩のあと、親子とも入水する様子もなく、遂には、陸上で授乳を確認したときには、思わず手に汗を握つたといふ。しかし、その後は例外なく“潜水哺乳”をはじめたのだ。

新生児の大きさ

せつかく出生しても、不幸にして成長せず死亡したのも少なくない。流早死産を除くと45頭中三日以内に死亡したもの18頭、しかもその原因が親の咬殺によるものや、オスメス同居中に出産が起こり、仔がオスの方に行つたばかりに授乳拒否を起こして死亡したものもあつて、神戸でも第二産目がそれで、生後三日目に死亡している。

さて、カバ新生児の体重は平均34～40kg。この大きさは親の体重1.5倍からすれば、サイの新生児体重に等しいことが解ったが、去る49年1月29日、神戸ではメス茶目子21才が第8回目のお産をした。これは名古屋（昭34・7現在すでに8産）に次ぐ多産記録である。3年6月で成熟し、果して繁殖可能年令は何才までなのだろうか。これまでの記録ではロッテルダム動物園で34才のメスが仔を産み、コベンハーゲンでは39才で仔を産んだといわれている。21才の茶目子は精神、体力ともまだまだ衰えていない。しかし、次々育てた仔を養子に出してきたいまも、その息子や娘たちのことを忘れていないことだろう。

懷妊日数とお産

やはり、水中交尾とあつては明確な数字を記すことが難しいとあって、不明園がかなりあり、出生頭数50例中記載されたのは半数の24例、その平均在胎日数は二三八・五日、約8カ月となつた。

さて、カバのお産は水中か陸上かという興味深い実例



★月刊「神戸っ子」13周年記念祝賀会

★第3回ブルーメール賞表彰式

★恒例

'74神戸っ子 酒祭り

とき / 3月23日(土) 午後6時~8時30分

ところ / 神戸オリエンタルホテル2F大ホール

¥5,000

主催／月刊「神戸っ子」

後援／灘五酉会・神戸百店会

チケットのお申し込みは月刊「神戸っ子」編集室まで

Welfare Institutions in the World

世界の福祉施設

欧米の心身障害者を訪ねて

橋本 明 著

定価1,000円

送料 200円

「神戸っ子」です コンニチワ！

明るく豊かな海と山と街なみ。自由で洒脱な神戸人気風。いつも新鮮な魅力を持った街神戸、そこに生きる人々。私たちは神戸を愛し続けてきました。月刊雑誌「神戸っ子」はそんな私たちの心の結晶、そして願いです。「神戸っ子」を、同じように神戸を愛する人たちに読んでいただければ、と思います。遠く離れたお友だちにはあなたからプレゼント。郷土を愛する人たちの心が伝わる神戸からの定期便です。

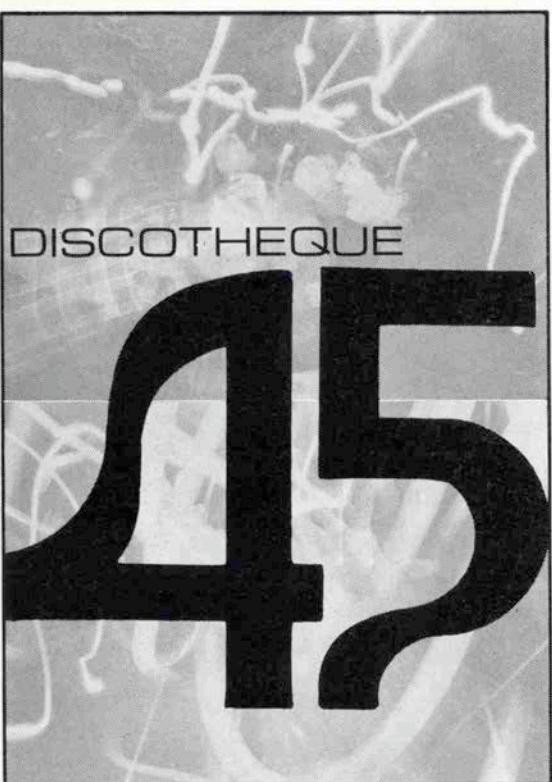
★ご購読料金（送料とも）

半年(6冊)……1,200円

1年(12冊)……2,400円

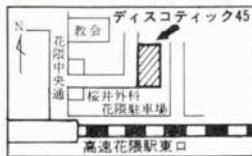
各書店で好評発売中！ 振替口座 神戸45196

お申込みは月刊「神戸っ子」編集部まで。神戸市生田区東町113の1 大神ビル8F TEL(331)2246



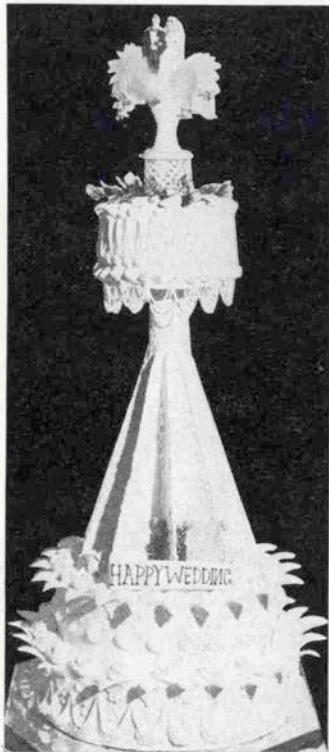
OPENS (weekday) ● 8 : 00p.m. CLOSES ● 3 : 00a.m.
OPENS (holiday) ● 6 : 00p.m. CLOSES ● 2 : 00a.m.

12時までワンドリンク女性 800円 男性 1000円
毎週月曜日定休 (祭日と重なる場合は火曜日)



花隈中央通り45 ☎341-2845

ウェディングケーキ



ご予算に応じて各種ケーキの予約
を承ります。



神戸三宮生田東門筋
TEL. 331-5628

二人を祝福する

★コンピューター・ドックシリーズ

〈5〉

★3 時間ドックとは？

「気軽に成人病健診を」と、兵庫県下ではじめてのコンピューターによる健康診断センターが、神戸市長田区丸山町3、丸山病院

判決は丁か半か！

レポーター

山下 駿兒

（神戸テレフォンサービス KK取締役）



▲検診中の山下さん

▲院長先生から結果の発表。ドキドキ

私は自己共に許す自信家、花の三十五歳である。何しろこの年迄病気一つせずお医者さんの門をくぐったのが確か大学入試に必要な健康診断書を貰うため滝川高校の近くの医院へ行つた記憶がぼんやりある位である。その私がコンピューターによる人間ドックへ。何と云おうか暖房のよくきいたデラックスなセンターで所定のグリーンのガウンに着替え、テレビ等ゆつくり見ているといつのまにか

三ノ宮のサウナ風呂に来ているような錯覚におちいり、やさしい看護婦さんの白衣がショーツ姿にかわって行く幻想を樂しんでいるうちに採血、心電図、X線と段々と進行して行く。最後に院長先生のご託宣。入試の発表を見る思いで一瞬緊張。裏が表か／丁か半か／元来自信家、うねぼれ屋といわれる種族は、暗示に弱い。もしここで院長先生に「実は云いにくいのですか・・・」等と云われたらどうしよう。判決が下つた。結果は「無罪放免」白と出た。先生ありがとう。看護婦さんありがとうございます、神戸の皆さんありがとうございます。

とう etc.

要するに人間な

んて弱いもの、あなたも健診を心よりおすすめいたします。

合掌。

丸山病院 健診センター

神戸市長田区丸山町3丁目20

TEL 神戸078(642)1131(代)

午前9時～午後5時

X線、胃部X線。身長、体重、視力、血压、眼圧の測定。心電図、心拍数解析、聴力、肺機能、眼底検査など六十六項目が全部自動的に進められ、コンピューターによって二日かかったものが三時間ですむ。費用は二万三千円「三十五歳以上の人にはぜひ年に一度うけましょう」と呼びかけています。

健診は、血液、尿の検査。胸部X線、胃部X線。身長、体重、視力、血压、眼圧の測定。心電図、心拍数解析、聴力、肺機能、眼底